

代 表 者

研 修 報 告 書

平成 30 年 2 月 2 日

仁友会 片岡 慶行 殿

呉市議会議員 北川 一清

次のとおり研修に参加したので報告します。

1. 研修期日

平成 30 年 1 月 23 日 (火) 午前 10 時～午後 4 時

2. 研修項目

インフラ老朽化問題 理論編&応用編について

3. 参加議員

北川 一清

■ 研修項目

・ 研修団体及び講師

主 催 地方議員研究会

講 師 根本祐二東洋大学教授 (兼務：内閣府 P F I 推進委員)

【研修目的】

人口減少に突入した地域における「地方創生」と、其の為のインフラ整備はどうあるべきか。

【研修内容】

1970年代からの高度経済成長期に日本の社会資本（インフラ）は、整備されていますが、今後急速に老朽化することが懸念されています。今後20年間で「道路橋、河川、トンネル、下水道、港湾」等について、建設後50年以上経過する施設の割合が、加速度的に高くなる見込みであり、戦略的に維持管理・更新することが求められます。

【質疑応答】

（観光インフラ整備について）

Q：我が国は、豊かな観光資源に恵まれ「自然・文化・気候・食」という観光振興に必要な条件を兼ね備えた、世界でも数少ない国の一つであり、観光先進国としてのポテンシャルを有しております。今や、観光振興は「地方創生」の大きな柱であり、成長戦略の切り札となるように、政府はこれまで精力的に取り組んできました。この結果、本年の訪日外国人は約2,800万人を突破し、その消費額は、4兆円を上回る勢いで推移している。こうした背景の下、政府は2020年の訪日外国人旅行者数4,000万人を目標とし、ハード・ソフト両面のインフラ整備を統合的かつ計画的に進めるため、官民一体となった観光ビジョンを実行しなければなりません。

A：2020年に訪日外国人旅行者4,000万人時代へ向け、全国各地の観光資源の魅力を高め、観光客が快適に全国各地での旅行を楽しむことのできる施設や設備を整備し充実させることが、満足度を高めることであり大事な「リピータ」ともなり得ます。ハード面の観光インフラ整備だけでなく、そのインフラを機能させ、効果を高めるためのソフト面での取組みが一体となって、着実に推進することが重要となる。

【呉市での展開の可能性】

・インフラ老朽化問題と公共施設等の総合管理計画は、施設総面積の圧縮が基本ではあるが、経費削減と受益者負担額の見直しや、民間の発想による収益事業への展開など、公民連携の手法を取り得て最大限に活用する発想が求められる。

・呉市の豊富で多様な観光資源が、誇りを持って磨き上げる為に「観光インフラ」を整備することにより、地域経済を活性化させる「呉市再生」の大きな礎となりえる。